

2020年度事業計画

2020年3月27日

学校法人 富澤学園

【1】 法人本部の事業計画

○外部資金確保と経費節減の取組み

大学、短期大学部、高等学校及び幼稚園において、教育・研究活動が十分に展開できるための補助金を獲得するため、積極的な情報提供や検討を行う。また、税の優遇制度も積極的に活用し寄付金募集に努める。

経費支出については法人全体で節減に取り組む。特に事業実施と予算管理権限を各校園に委ねることにより、権限と責任の明確化を目指す。

○法人財務健全化の取組み

課題となっている「経常収支」、「資産から負債を差し引いた額」については、令和2年度から「経営健全化緊急対策」に取り組む、早期の経営改善を目指す。

また、限られた資金の有効活用を図るため、経費等を継続して再点検するなど、法人組織一丸となって経営状況改善の取組みを行う。

○富澤学園広報対策の取組み

法人内の「広報小委員会」を活用し、各校園のWEBサイトとの連携を図りながら、法人全体のイメージアップのための情報発信の取組みを行う。

大学から高等学校、幼稚園まで運営する県内唯一の総合学園の特色を生かし、法人全体で広報活動の取組みを行う。

○事務能力向上のための人事交流促進

各校園間の人事交流を積極的に実施し、職員の能力向上と組織の活性化を図る。

併せて、退職者が補充されない状況が続くことから、情報関連機器等を積極的に活用した新しい時代の事務システム構築を目指す。

【2】 東北文教大学・東北文教大学短期大学部の事業計画

○不断の教育改革の取り組み

どこよりもあたたかい指導に基づく教育を行う大学を目指し、「きめ細かな指導」「個別指導の充実」「自他への信頼感の醸成」「学びの成果のふりかえり」などを指導の軸に、①退学者数や留年者数における少ない状況の維持、②学びにおける質保証と達成感の把握、③正課外活動の充実、に取り組む。

①については、従前の学生動向の把握及び学生面談や保護者面談に検討を加えるとともに、「合理的配慮」を前提とした教育の充実を図る。②については、「学修成果等アンケート」の実施及び子ども教育学科における入学時アセスメントテストの実施、リメディアル科目の開講、全学に対する学修支援センターの活動に加え、学修成果の質保証とその可視化のため、ディプロマポリシーに関わる能力・資質の明確化及び学生個々の達成度をGPAに基づくレーダーチャートにより実感させる。③については、従前の部活動やボランティア活動への金銭的支援と表彰制度及び連絡協議会を維持しつつ、連絡協議会における学生からの提案にはすみやかな対応を図る。

○学科新設・改組の取り組み

大学については、人間科学部に新学科「人間関係学科」を設置するために、大学設置・学校法人審議会の審査を受ける。審査意見が伝達され計画の修正が必要な場合は、迅速かつ的確に対応し、補正申請書を提出する。そして、新学科の設置認可後は学生募集や入学者選抜などを実施する。

短期大学部については、「総合文化学科」は2020年度入学者をもって募集を停止する。「人間福祉学科」は2021年度から学科名を「現代福祉学科」に名称変更するために必要な書類を作成し、文部科学省に届け出る。また、現在、短期大学部にある「留学生別科」を2021年度から人間科学部の別科にするために必要な書類を作成し、文部科学省に届け出る。

○就職力向上・確保の取り組み

就職に向け学生の意識を高め志望動機を明確化するため、「教員職」「一般職」「保育専門職」「介護福祉専門職」など領域別に毎週開催している進路ガイダンスを継続し、「キャリアガイド」について内容を見直す。例年実施している「企業研究会」「保育職就職セミナー」「福祉就職セミナー」において専門分野に特化した講師の獲得により、引き続きその内容を充実させる。また、一般職の就職活動準備期間を多くするため「企業研究会」の実施時期を繰り上げる。

各領域の取り組みとして、「教員職」においては教員採用試験に向け、教職実践センター、学修支援センターと綿密に連携し基礎学力を向上させる。「一般職」においては「学内企業説明会」の拡大を図ることにより新規企業を取り込み、インターンシップや企業研究のため進路支援センターモバイルサイトから情報発信する。「保育専門職」においては公務員保育士模擬試験を前年同様実施する。「介護福祉専門職」については有償インターンシップについて支援する。

○大学ブランド力向上の取り組み

本学の強みと現在の進学を取り巻く状況をすり合わせた広報を進める。「学生と教職員の距離の近さ」「学生一人ひとりを大切にする」などのメッセージを通して、強みである「ていねいな教育・支援」についての発信をし続ける。同時に、地元進学のメリットを伝えるものとして、地元に着した卒業生の事例をより積極的に紹介していくことで、大学のイメージ作りを進めていく。

○定員充足率向上の取り組み

大学については、2021 年度「子ども教育学科」は、より一層学科の教育目的に応じた適切な入学者を確保する。新設の「人間関係学科」は入学する数を確保できるように人間科学部全体としての魅力もアピールできる広報を進める。

短期大学部については、人間福祉学科の「現代福祉学科」への学科名変更とカリキュラム変更をふまえ、履修モデルを作成し、新規の志願者が出る可能性のある高校に集中的にアピールする。また、「子ども学科」は、教育内容・方法を具体的に示し、実習を核とした学科の特色をアピールできるようにするとともに、「中学生対象保育ワークショップ」などを実施することで保育職の魅力を発信し、保育職を目指す生徒の発掘を行う。

○教育環境の充実・整備

教育環境の整備を継続して実施する。特に 2020 年度は懸案となっている 3 号館の結露等対策工事を実施するほか、学生食堂を含む 6 号館全体の空調設備更新と、体育館照明に関しては省エネ型設備に交換するなどの対策工事を進める。

【3】 山形城北高等学校の事業計画

○学習の質的転換の試み

2020年度は、一昨年度より取り組んできた実践項目「授業改善」を、指導重点目標として継続し、その充実を目指す。「授業改善」とは、授業(学習)の質的転換である。質的とは、新学習指導要領の柱とされる「主体的・対話的で深い学び」の実現を意味する。より具体的にはAI時代に対応できる人(学力の3要素を身につけた人)の育成のために、「学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法」の実践を目指していくことである。そのためには、ICT導入による授業内容の効率的伝授と授業の構成要素に協働性を取り入れることが必要とされており、本校としても、今後もその方向性へ向けて改善に取り組んでいきたい。

昨年度は、ICT活用の基盤作りのため、常勤教員全員にPCを配付し、日常的連絡・会議資料などの使用を通して、積極的ICT機器の活用を促し、一定の成果を得た。また、授業用ICTを増やすと同時に、「授業改善強化期間」(前後期に各約1か月)を設定し、ICT活用と協働性の要素を取り入れた授業を多く実施した。また、教員生徒間の双方向と生徒同士の協働性がより発揮しやすい授業環境の整備を目指して、対象生徒全員がICTを使用して授業を受けられる教室を、前期途中より特進科に続き普通科にも整備した。ただし、実践実施等ではまだまだの感をまぬがれ得ない。今後は、「学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法」の確立に向けて、一昨年度より導入した、授業スキル向上のための手法やノウハウ等を他教育機関における授業風景映像コンテンツの視聴とともに、校内研修会を実施する予定である。その実施効果については、「基礎学力テスト」「授業評価アンケート」で検証していくこととしたい。

前年度に引き続き、指導重点目標には、「授業改善」とともに「HR活動の活性化」を掲げることとする。これは授業改善が目指す「学力の3要素」の、一つである「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を、学校生活(特にHR活動)という実践の場に活かそうとする試みである。AI時代に対応できる(生きる)人に求められるものに、「問題発見能力」「問題解決能力」がある。そこで、HR活動を中心とした学校生活の中での、さまざまな活動を通して、「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」の実践、「問題発見能力」「問題解決能力」を育てていこうとするものである。より具体的には、HR単位で参加する行事の企画立案と実践の精度を昨年度より上げていく計画を立てていく予定である。前述の「授業改善」と同様に、「クラス経営評価」・各行事等の振り返りアンケートにより、一定期間での検証を繰り返し、その結果を踏まえての実践というサイクルを計画している。

一方、学習の質的転換がなされかつ継続されていくためには、教科横断的な「総合学習」が、今後、教育課程の中心に位置づけられる必要がある。「総合学習」のテーマとして、建学の精神を基盤とした地域との結びつきの強い取り組みが作り上げられれば、

「総合学習」はより充実したものとなるものと考えられる。懸案の事項となっているが、2020年度当初からの具体的成案作成に向けて、教育課程・学校行事全体の再編成も含めた議論ができる委員会を立ち上げ、2022年度からの実施予定で議論を進めていくこととする。

○科・コースの見直しと検討

2018年度、普通科のスポーツ総合・進学教養2コースが完成年度を迎えた。この2コースについては、科目の変更等の修正をかけていく必要がある、今年度中にその検討と修正案を作成する予定である。同時に「学習指導要領」の改訂に伴い、本年度中に2022年度からの新教育課程を作成する。また、普通科の幼教福祉コースについては、多少の科目等の変更はあったものの、大きな変更のないまま、約10年間に過ぎている。現状では、このコースが特進科及び他の普通科のコースに比べ、名称が示すとおり進路が明確なものとなっており、「東北文教大学」とのつながりの強いコースである。ただし、少子化の急速な進行、文系理系という分け方が巷間取りざたされる状況等を考えた時、より多様で選択にとらわれない学びが求められている社会状況もある。その点も含めて、2020年度から新たな科・コースの再編成実施に向けて、総合学習についての検討委員会の進捗状況を見据えながら、教育課程委員会にて検討する。

○定員充足率向上の取組み

2019年度には、少子化の進行を踏まえて定員の適正化を図ったが、更なる少子化に備えて、定員充足とともに教育内容の充実度を高めていく必要がある。その為には、第一に魅力ある学校づくりが必要である。これは、もとより在学する生徒・保護者の満足度に起因する。特に、日々の学校生活、その中でも授業の充実が最も大切である。その意味で、今年度の指導重点目標の達成がまず急務である。次に、上記のような取り組みをより多くの人に知ってもらう取り組みが必要とされる。そのために、一層広報活動に力を入れる必要がある。HPの更新回数とアクセス件数を増やすための工夫、PTA活動・同窓会組織における広報活動の充実、また外部へ向けての開かれた活動参加(研修・講演)の充実を図る。また、募集活動における丁寧なかつ真摯な対応は勿論、新企画を計画していく。以上2つの点については、総務課・広報課が中心となって企画・実行していく予定である。

○教育環境の充実・整備

2020年度の教育環境整備としては、トイレ設備充実を図るとともに校舎本館の給排水設備に関して改修工事を行う。

【4】 東北文教大学附属幼稚園の事業計画

○教育内容充実に向けた取り組み

- ・昨年度の日本乳幼児学会公開研究会の成果を活かし、今年度も遊びに没頭できる「子どもの主体性を大切にした保育」を目指すことにする。
- ・「子どもの主体性を大切にした保育」を目指すには、子どもの気持ちに寄り添ったり、目の前の子どもの行動の意味を推し量ろうとしたりする保育者の心構えが大切である。このことから、今年度の研究の視点はさらに子どもが遊び込めるように「子ども理解と環境構成」とする。
- ・子ども達の健やかな心と身体の成長を促すために、「食育」をさらに推進する。新たに自園給食を始め、子どもたちに安心・安全で温かく美味しい給食を提供する。食べることの楽しさや食べることの大切さも、季節や教育課程に沿って伝えていきたい。
- ・大いに食べることで健康な身体づくりをしながら、様々な運動に触れる機会も増やし、心身ともにたくましい子どもを育てていく。

○保護者との連携を大切にした取り組み

- ・保護者も楽しみにしている給食試食会を、各年次毎に計画していく。この取り組みを通して、自園給食の良さ・素晴らしさを保護者からも内外に発信してもらいたい。
- ・子どもの日々の成長を記録した連絡帳での報告を今年度も実施したい。夢中になって遊んでいる子どもの姿の写真と、その時の何が成長しているのか担任が記録して保護者に伝えることで、保護者と教職員との信頼関係が深めることができる。それが家庭での会話に繋がり、子どもの成長をさらに促すことになると思われる。
- ・これまで週2回で進めてきた「手作りお弁当」の日を月に1回程度計画し、親の愛情が感じ取れるように、また親への感謝の気持ちが育つようにしていきたい。

○教育環境充実に向けた取り組み

- ・子どもの遊びが一層充実していくように、子どもの遊びの様子に合わせて、遊具や道具を準備していく。
- ・大型遊具等、手作りできるところなどアイデアを活かし、子ども達の遊びがよりダイナミックに展開できるよう、創意工夫していく。
- ・年長棟の空調設備に不具合が生じていることから、改修工事を実施する。
- ・プレハブ物置の設置工事を実施する。
- ・園舎照明器具については段階的に省エネ型のLED照明に切り替えることとして、2020年度から一部実施する。

○教職員の資質能力向上に向けた取り組み

- ・幼稚園協会主催の様々な研修会に教員を積極的に参加させ、研修の事後報告を共有しながら、全員の研修としていく。
- ・折に触れ園内での話し合いを充実させ、一人一人が幼稚園経営や保育の質の向上に対して、自分事として取り組めるよう仕組んでいく。
- ・夏季研修として、関東・関西地区を中心に各自が自分で選択する研修に積極的に派遣する。

○定員充足率向上への取り組み

- ・来年度以降入園する乳幼児を対象に行っている地域提供事業「ちびっこひろば」を、今年度も計10回開催する。手遊び、歌、簡単なおもちゃ作り、外遊びなど豊富なメニューを準備し、幼稚園の楽しさを十分に味わってもらおう。
- ・「ちびっこひろば」では、毎回幼稚園選びのポイントと称して、園長からどのような幼児教育施設を選んだらよいかについて具体的な話をして誘い込んでいく。
- ・ホームページを通して、本年度から始まる温かい給食が提供できるようになったことを、大いに発信していく。さらに、日常の楽しい遊びの様子を保護者にもリアルタイムでお知らせできるよう、各年次や学級担任・幼稚園から発刊しているおたより「めばえ」もホームページ上に掲載し、本園の取り組みを随時発信していく。